Ｑ．（基礎問題精講 数ⅡＢ p.205 演習問題 132-(1).(2)）
解答(p.293)で、
(1)格子点の(x.y)の表し方は分かったのですが最後の個数がなぜ解答のようになるのかがわかりません。
(2)格子点の個数の求め方でΣを使用することはわかりましたがなぜ計算で 2Σになるのでしょうか（2 がある理由）。

Ａ．
（１）
直線 $x=k$ に載っている格子点のうち、一番上にあるのが直線 $y=n^2$ との交点である(k,n^2)、一番下にあるのが放物線 $y=x^2$ との交点である(k,k^2)です。
格子点は１ずつｙ座標がずれた点の集合なので、ｙ座標が k^2 から n^2 まで変化すると考えて n^2-k^2+1 個となります。最後に＋１するのは植木算の考え方によるものです。忘れやすいので注意してください。
（例：ｙ座標が３から５まで変化するとき、格子点は３，４，５の３つ。式では５－３＋１＝３個と求めます。）

（２）
放物線も直線もｙ軸に対して**対称**な図形です。そのため、格子点の数も対称になります。そのため、ｙ軸を挟んでどちらか半分のみを計算してそれを２倍すれば求められることになります。ただし、対称軸であるｙ軸上にのっている格子点の数も含めて２倍してしまうと、多く数えることになってしまうので、ｘ座標が１からｎまでの格子点のみを２倍して、そこにｘ＝０（ｙ軸）上の格子点の数 n^2+1 個を加えています。

この対称を利用した考え方は、格子点の問題ではよく使うので覚えておきましょう。計算が楽になります。